

内務省衛生局雜誌節錄一

銅ノ人身ニ害アル説附銅鍍錫法及鍍着鹽
製方元京都司藥場意見

銅ノ人身ニ害アルヤ歐米諸名醫ノ辨明スル所ニ
シテ其中毒ニ緩急ノ別アリ急ナルモノハ一時之
ヲ頓服スルニ生スルモノニシテ其症先ツ悪心嘔
吐ヲ發シ胃部ニ劇痛ヲ覺エ遂ニ劇烈ノ腹膜炎ヲ
發シテ死ニ至リ或ハ銅分ヲ血中ニ吸收シ血行ニ
從テ循環スレハ甚シキ頭痛或ハ手足攣急若クハ
搐搦等ヲ發シ其脈極テ弱小トナリ繼テ言語及呼
吸困難ヲ發シテ死スルモノ是レナリ其緩ナルモ

千葉縣

ノハ極小量ヲ用フルノ久キニ由リテ生スルモノ
ニシテ其人必ス惡液質トナリ羸瘦シ且消食機全
ク妨碍ヲ受ケ便秘腹痛或ハ嘔嗽ヲ發シ後ニハ神
經諸症即チ搐搦麻痺若クハ水腫ヲ發スルヲ往々
之レ有リ此レ知ラス識ラス其毒ニ中リテ終ニ救
療スヘカラサルニ至ルモノナリ其因ハ主トシテ
日常食物ヲ烹ルニ銅鍋ヲ用フルニ在リ殊ニ銅鍋
ニテ酸味ノ食物ヲ烹ル時ハ銅ト酸ト合シ酸化銅
ヲ生シテ食物ニ侵入シ其毒ヲナスヲ尤甚シク鹽
水或ハ醬油等ヲ加ヘテ烹ルモ亦銅ノ溶解ヲ促ス

速ナリ本邦ノ人民其人身ノ健康ヲ害スルコト此
 ノ如キヲ悟ラサルノミナラス甚キニ至リテハ銅
 線ヲ以テ昆布ニ色ヲ與ヘ或ハ割烹營業ノモノ鹽
 漬筍等ヲ烹ルニ故サテ銅匙ヲ用ヒテ鮮色ヲ與ル
 モノアリ無智ノ甚キモノトス故ニ銅鍋ハ斷シテ
 用フヘキモノニ非サルナリ然レモ銅鍋ヲ用ヒテ
 其毒ヲ預防スル亦其方法ナキニ非ス則チ佛國等
 ニテ多ク之ヲ用フル所ノ鍍錫方是ナリ本邦ノ金
 エハ錫ヲ鍍スルノ方ヲ熟知スルモノ極テ稀レニ
 シテ所謂白日等ヲ鍋内ニ鍍シ其酸化ヲ防クニ供

千葉縣

スト雖モ此白目ト云フモノハ洋名(アンチモニユ
 A)ナル銅屬ヲ含ムモノニシテ其害ヲナスモ亦少
 カラス故ニ今鍍錫ノ方ヲ詳記シテ廣告シ銅鍋ノ
 害ヲ預防セシメントス

銅鍋鍍錫ノ最良法

先ツ稀硫酸硫酸一分加フルモ水五分ニテ銅鍋ノ内面ヲ洗
 ヒ次ニ濕砂ヲ以テ磨淨シ水ヲ以テ管ク洗滌シ清
 淨ナル拭巾ニテ之ヲ拭ヒ後ニ木炭火上ニテ乾シ
 熱シテ錫ノ熔鑪スヘキ點ニ至リ礬粉末少許ヲ撒
 布スルカ或ハ錫ノ鍍着ニ用フル鹽類乃鹽化亞鉛

加硫砂 $ZnCl_2$ ($NH_4 Cl$)₂ [製方後ニ] 草ニテ塗抹シ清
 淨ナル錫ヲ容レ羊毛或ハ綿片ヲ以テ之ヲ釜面ニ
 塗擦シ終リニ過剩ノ錫ヲ傾ケ去ルヘレ此ノ法ハ
 西洋一般用フル所ニシテ極テ實際ニ功アリ但レ
 錫ノ純雜ニ注意セスハアルヘカラス東印度ノ(ハ
 ンカ)及ヒ(マラツカ)ニ産スルモノヲ以テ最モ佳品
 トセリ本邦及ヒ支那ノ錫ハ大ニ不潔ニシテ常ニ
 鉛或ハアンチモニユム或ハ砒石ヲ含メルカ故ニ
 之ヲ分析精製セサレハ其用ニ供シ難シ然レ其方
 亦容易ナラサレハ宜シク東印度ノ錫ヲ用フヘキ

三 千葉縣

ナリ
 右ノ方ハ甚ダ簡便ニシテ熟練ヲ要セス精錫ト礬
 砂或ハ鋅着鹽ヲ得ルカハ每人亦日ヲ之ヲ行フコ
 トヲ得ヘレ

鋅着鹽即鹽化亞鉛加硫砂ノ製方

亞鉛一分ヲ陶皿ニ容レ強鹽酸ヲ注キ液ニ別ニ炭
 火上ニ砂鍋ヲ載セ其上ニテ蒸發シ舍利別椽ノ稠
 液ヲ爲スニ至リ礬砂一分ヲ加フ其用法ハ直チニ
 此稠液ヲ取リ羽毛或ハ草ニテ銅鍋内ニ塗抹スヘ
 レ附銅管ヲ接着スニ錫ヲ用ヒント
 亦先ツ此鹽ヲ塗抹スヘント

嬰兒養育牛乳分量概表

左ニ示ス牛乳分量概表ハ嬰兒養育ノ爲ニ普通供用スヘキモノトス然レモ該兒ノ強弱ニ因リテ其分量ニ多少ノ差異アリ猶ホ其體質ニ就キテ斟酌アルヘシ

小兒ノ齡	牛乳ノ分量	水ノ分量	糖ノ分量 乳糖或白糖
自二日至十日	五十五匁	百四十七匁五分	一匁四分二厘五毛
自十日至三十日	五十五匁	百四十匁	一匁二分五厘
二月	五十五匁	百三十五匁	一匁四分二厘五毛
三月	七十匁	百三十匁	一匁二分五厘
四月	八十五匁	百二十五匁	一匁二分五厘
五月	九十匁	百二十二匁五分	一匁七厘五毛
六月	百五匁	百五匁	一匁七厘五毛
七月	百五匁	九十二匁五分	一匁七厘五毛
八月	百四十匁	百五匁	一匁二分五厘
九月	百四十匁	百五匁	一匁二分五厘
十月	百四十匁	九十五匁	一匁
十一月	百四十匁	九十五匁	一匁
十二月	百四十匁	八十七匁五分	一匁

右乳。水。糖ノ三種ヲ合セテ一日ノ量トス

疫咳豫防法

疫咳俗ニ之ヲ百ノ病タルヤ一種小兒ノ傳染病ニシテ猶ホ痘瘡及ヒ麻疹ノコトク一タヒ之ヲ患ヒシ者ハ大抵再感スルコトナレ然レモ此病ハ假令ヒ直チニ其生命ヲ殞トサハルモ之ガ爲メニ肢體ノ生長ト知慧ノ發達トヲ妨ゲ或ハ肺病ヲ遺スガ故ニ後來羸弱ノ身トナル者尠ナカラズ故ニ歐米各國ノ如キハ夙ニ疫咳豫防法ノ設アリ人民ニ説諭シテ之ヲ施行スルコトヲ務メレム然レモ尙ホ古來

五 千葉縣

ノ慣習ニシテ小兒タル者一回ハ必ス此患ヲ免ル可ラサル者ト思想シ之ヲ天然ニ委シテ意ヲ用ヒサル者アリト聞ケリ我邦ニ於テハ世俗ハ勿論醫家モ亦其傳染病タルコトヲ知ラサル者多ク未ダ曾テ其豫防ヲ務ムル者アルヲ聞カズ故ニ一旦流行スルトアレハ悉ク未患ノ小兒ヲ侵スニ非サレハ止マズ豈憾然ノ至ナラズヤ今其豫防法ノ概畧ヲ擧ケテ之ヲ世ノ慈母愚兄ニ告ク

夫レ疫咳ノ病タル毎常必ス他人ヨリ傳染シテ發起シ其始メハ宛モ尋常ノ加芥兒即チ風邪ノ如シト雖モ二

三日ヲ過グレハ身熱去リテ獨リ咳嗽ヲ遺シ剩ハ時々劇發シテ本病固有ノ狀態ヲ呈ハスヲ常トス抑此病毒ハ患者ノ咽喉粘膜ヨリ分泌セル粘痰及ヒ其部ノ蒸發氣中ニ稟含シ他人ニ觸レテ直チニ傳染シ或ハ衣服ニ染着シテ暗ニ傳播スル者ナリ故ニ一家族中一兒ノ此病ニ罹ル者アルキハ可成的其兄弟姉妹ニシテ未タ曾テ此病ヲ患ヒザル幼兒ヲ別居セシメ又其全治ニ至ルマデハ學校ニ就カシムルコトヲ停メ近隣ノ小兒ト同遊セシム可カラズ且ツ患兒ノ着用シタル衣類手巾等ノ如キハ石炭酸ヲ加ヘタル藥水

六

千葉縣

ニ滿シ置キ後ニ熱湯ヲ概キテ之ヲ洗濯シ以テ其病叢ヲ撲滅スルコトヲ務ムベシ

○ 顔料藥物試驗成迹告示

世ニ早染ノ或ハ漆粉ト唱フル顔料ニハ多ク有毒品アリ若シ其價ノ廉ナルト着色ノ靚麗ニシテ兒童ニ售レ易キトヨリ食リ之ヲ以テ飲食物ヲ裝飾スルキハ必ス不測ノ危禍ヲ招カントス己ニ一二ノ地方ニ於テ着色ノ食物ヲ食フテ之カ爲ニ死ニ瀕スルモノアリト云フ今東京府神奈川縣ノ請求ニ

因リ試験ヲ經テ指示セル顔料十一種ノ成迹ヲ左ニ掲ゲテ之ヲ四方ニ告知ス

紺青 緑青

此二品ハ銅ヲ含有ス故ニ毒アリ

洋紅

洋紅ハ「コーゼニール」ル過ノ色分ヨリ製シタルモノニシテ毒無シ然レモ坊間ニ往々「アニリン」製ノ紺粉。紫粉ヲ以テ洋紅ト假稱スル者アリ注意スベシ

鍍金粉

鍍金粉ハ鍍金根ヨリ製シタル者ハ毒無シト雖モ

七 千葉縣

坊間ニ於テ鍍金砂ト稱スル者ハ即チ「ピクリン」酸ニシテ毒アリ

郡青

郡青ハ珪酸。礬土。硫黃。ソーダ。ヨリ成ルモノニシテ毒無シ

紅粉 紺粉 茶粉 青竹粉 緋粉 紫粉

此六品ハ何レモ「アニリン」ヨリ製スルモノナレハ純乎タル化學的ヨリ論スレハ有毒ノ成分無シト雖モ其製造中ニ砒石。昇汞ノ如キモノヲ用フルニ至リテハ毒有アリトス是故ニ甲ヲ分析シテ毒ナ

キモ乙ヲ分析スレハ毒有ルヲアリ而レテ現ニ坊
間ニ敷在スルモノハ粗造品多キガ故ニ是等ノモ
ノハ飲食物ノ着色ニハ用ヒサルヲ以テ善トスル
ナリ

魚肉能毒辨

魚肉ハ古來人ノ常食トスル所ニシテ多クハ滋養
力ヲ備ヘ或ハ獸肉ニ減セザルノ品種ナキニ非ズ
ト雖モ亦毒アリテ食フ可カラザル者少ナレトセ
ズ若シ之ヲ撰バザレハ恐クハ危害ヲ冥々中ニ招

カントス安ニ和蘭國衛生備考ニ就キ魚肉能毒辨
ヲ鈔譯シテ其一端ヲ示スト云フ

魚類ハ大抵皆食用ニ供スベシ「アメリカ國ノ土民ノ
如キハ殊ニ獸肉ヲ食ヒ其餘兩極ニ近キ國ノ人民ハ
大抵魚類ヲ食フテ身體ヲ養ヘリ而シテ獸肉ヲ食ヘ
ル人民ト魚肉ヲ食ヘル人民トノ異ナル所以ヲ論ス
ルトキハ魚肉ヲ食フ者ハ身體ノ組立筋力共ニ弱キ
ガ故ニ其體力モ亦隨ヒテ弱キガ如シ此說ハ殊ニ「ラ
フランドル」「サモイテン」「アルーシラント」「カムスカダ
ーレン」及ヒ其他北國ノ人ニ就キテ云フ所ナリ此地
ノ人

民ハ腐敗セル魚肉ヲ嗜ミ食フト雖モ尙ホ能ク其然
 年齡ヲ保チテ健康ナルハ甚ダ異トスル所ナリ
 レモ和蘭ノ漁夫ハ漁獵ノ間魚類ヲ主食トシテ生活
 スルニ身體強健ナルヲ見ルトキハ此説ト相反スル
 モノニ似タリ和蘭有名ノ理學家レ―ウエンフ―ク
 漁夫ノ甚ダ健康蓋シ漁夫ハ常ニ開露ノ空氣中ニ起
 ナルヲ稱セリ居シ其業ヲ營ムニ當テハ努力操作スルガ故ニ之ガ
 爲ニ健康ヲ助ケ筋力ヲ増加スルノ理アルナリ
 魚肉ノ成分ハ解剖化學ノ意ヲ以テ之ヲ言フトキハ
 獸肉ノ成分ト異ナルモノ殆ト少ナク但水ヲ含ムコ
 ト獸肉ヨリ多キ五分ノ四ニ居リテ特ニ纖維質ノ少

九 千葉縣

キノミ且ツ血質ノ寡少ナル魚肉ノヲ見ルトキハ滋
 養ノ力獸肉ヨリ少ナキノ理自ラ分明ナリ又魚肉ノ
 消化スルモノ獸肉ノ速ニ消化スルニ及ハス魚肉ニ
 是ルヲ含メル脂肪甚ダ多量ナリ然レモ魚類ハ體部種
 リ此即チ消化シ難キ主因ナリ
 類居處淡水水娠時其子ヲ摩リ附陰具ヲ存スルモノ陰
 具ヲ割去スルモノ及ヒ化牡等ニ因リテ消化ノ難易
 滋養ノ多寡アルモノ獸肉ニ異ナラズ魚類ノ陰具ヲ
 ハ翠丸ヲ割去セル馬ト同和蘭人ノ言ニ白子アル魚
 シクシテ其肉甚ダ佳ナリ
 類ノ味ハ眞子アルモノニ勝レリト云ヘルハ之ガ爲
 ナリ然レモ淡水ニ栖ム魚ハ鹹水ニ栖ム者ニ勝レリ

ト稱スルハ信シ難シ此事ヤ實ニ其魚ノ成分天稟ノ
 混和ニ關スル者トス常例鹹水ノ魚ハ淡水ノ魚ヨリ
 モ柔軟ニシテ舌ヲ刺戟セリ鮪。ブレイ。白色ニシテ光
 似タ、梭魚。貝類。比目魚ノ種類。カーベルヤーク。大口魚
 等ハ人ノ多ク用フル所ニシテ滋養消化兩ナカラ最
 モ善キモノナリ鰻。ステユル。大魚。鰻。ハ脂肪甚タ
 多クレテ上ノ魚類ヨリモ消化シ難シ魚類ハ之ヲ意
 善ノ力ヲ減ス其溶解易スト其一分ハ水ニ溶
 解シテ去ルカ故ナリ鱈魚。乾魚。鹽魚ハ其始メ柔軟ニ
 ナリテ漬汁ヲ出スカ故ニ又滋養ノ力ヲ失ヘリ
 魚飼ヲ用フルニ緊要ノ事アリ第一ニハ其人身ニ害

十 千葉縣

ヲ爲ス原因アラシクヲ探索スヘシ第二ニハ此患害
 ヲ防グノ法ヲ求ムヘシ先ツ第一ニ魚類中ニハ天性
 毒アルモノ多シト知ルヘシ魚類有害ノ事ニ就キテ
 ハ他書ニ詳ナレトモ此篇ニ縷述セサルモノハ和蘭
 ノ海河ニハ有毒ノ魚類少ナク且ツ毒魚ヲ獲ルモ肆
 店ニ置クヲ禁ズルガ故ナリ諸國ノ海水中ニ於テ殊
 ニ多シ彫。鰻魚。梭魚。河豚。魚。ナルヘシト唱フルモ
 ノ是ナリ瓜。蛙。ニテハ此魚ヲ肆店ニ上ホストヲ禁ズ
 善望峯ノ港ニモ常則アリ衛生官ヨリ海兵ニ諭告セ
 ル如クシモ又千八百五十年ホルラデンノ軍艦死
 セルモノアリ中ノ水夫五人此魚ヲ食ハル時トシテ
 一ノ人ハ食ハル時トシテ病子是

たり^ビハ^一テ^ルマ^シ魚ノ名ハ其刺ヲ以テ腕ヲ刺然レ
 スキハ大ニ腫起ス此魚ヲ捕フル時屢此患アリ然レ
 又魚類中常ニ毒ナキモノト雖モ時ニヨリテ多少
 ノ毒性ヲ存スルモノアリ是一分ハ魚ノ性ニ關シ一
 分ハ軀外ノ原因ニ關スルモノナリ
 魚ノ性ニ關スルモノトハ第一其子ヲ摩リ附クルノ
 時ニ當リ捕ヘテ之ヲ食フキハ健康ニ害アリ此際ニ
 於テ毒質ヲ生スルノ部分ハ今尙ホ其何レニ在ルカ
 ヲ詳ニセズト雖モ之ヲ實驗スルニ鱒ノ如キハ全身
 ニ胞狀ノモノヲ發セリ第二諸魚ノ疾ニ罹ルモノア
 リ痘瘍^類蝨^類蝨^類ハ時トシテ條虫ヲ生シ若シ熱烹セズ

十一 千葉縣

シテ之ヲ食フキハ人ノ腹中ニ入りテ患害ヲ爲セリ
 又屢々之ヲ實驗スルニ魚ノ居留スル水中元ト脾脫
 疽ヲ患ヘタル獸肉ニ因テ毒ヲ存スルコトアルキハ其
 魚モ亦タ脾脫疽ニ類スル疾患ヲ得ルナリ又別ノ原
 因アリテ水ノ不長ナルキハ常ニ魚ノ疾病ヲ生セリ
 第三魚類ハ死後速ニ腐敗ス腐敗尙ホ輕微ニシテ嗅
 穢ニ感セサルモ大ニ健康ニ害アルコトアリ乾魚^類鱈^魚
 鱈魚ヲ製セントシテ病魚及ヒ死後久シキヲ經シ魚
 ヲ用ヒ且ツ鮮魚ヲ鹽汁ニ漬シテ腐敗ニ至ラシメ或
 ハ燻シテ有毒ノ性ヲ生セシムルハ之ヲ新ニ死シタ

鮮魚ノ製造ヲ經ザル者ニ比スレハ遜ニ劣リテ健
 康ニ害アリ又魚ノ脂肪甚ダ多キ者(鰻鱺)ハ尤速ニ腐
 敗シ干置ヲ濕潤ノ處ニ貯フルハ甚ダ速ニ腐敗ス
 又魚ヲ石灰水。ボツトアス水等ニ漬シテ柔軟ニナス
 ハ皆害アル者ニシテ良法ニアラス其他魚類ニ毒性
 ヲ生スルノ原因ハ其魚ニ別種ノ疾アルニ因リテ別
 種ノ毒質ヲ生スルニ非ラサルナリ 或ハ魚ヲ漬セル
 スル者アリ然レモ醃魚ニアラ 鹽汁ニ養性ヲ歸
 サルモ健康ニ害アルモノ多シ
 魚類ノ其子ハ新鮮鹽貯共ニ人ノ嗜ム所ナリ然レモ
 [ボツトヒス]ノ其子ヲ食フトキハ病症ヲ發スヘシカ
 ビ

十二 千葉縣

アールト稱スル者ハ「ステユル」大魚ノ名及ヒ其類ノ
 眞子ヲ鹽貯セシモノナリ此品ハ殊ニ「オルカ」ノ海濱
 製造ス
 又縣外ノ原因ニ關スルモノトハ第一魚ヲ捕ルノ法
 ハ毒性ノ原由タルモノ多シ魚ヲ捕ルニ「コツケル」
 コルレル」及其他ノ有毒ノ植物生石灰鉛銅ヲ水中ニ
 投入シテ容易ニ之ヲ捕フルモノ多シ此魚ヲ食スル
 トキハ定テ健康ニ害アリ第二魚ノ居留セル水ノ水
 銀坑。砒坑。鉛銅ノ坑ト相通スルトキハ其魚人ノ健康
 ニ害アリ然ルニ罪ヲ被銅船ヲ以テ底ノ外面ノ通
 行ニ歸スレハ誣ルト謂フヘシ 數年前北「ホル」ノ
 市街ノ渠中ニ死魚

充満セリ^{カリ}ハナリ^{ツト}ハ^{ブリ}ノ^溝渠大ニ^腐敗^シ一^頭集
ノ魚ヲ^見ル^ルニ^至ル

魚類ヲ食シテ健康ニ害アル所以ヲ熟考シ是ニ因テ
魚ヲ用フルニ次ノ諸法ヲ定ム生魚ハ壯健ニシテ之
ヲ水ニ放テハ速ニ游動シテ天然ノ色ヲ存シ且ツ其
子ヲ摩リ附ケサル時捕獲セルモノヲ善トス
市場ニ不良ノ魚類ヲ置ルヲ止メントナラハ次
ノ規則ヲ守ラシムヘシ

第一注意シテ死魚ヲ市場ニ置クベカラス自然ニ死
シタル魚ト疾ニ因テ死シタル魚トハ皆市場ニ置ク

可カラス^{バリ}ス^スノ^術ニ^長シ^殆ト^魚鮮^ナラ^ザル^魚ヲ^新鮮^ニ爲
キ^所ナ^リク^注意^スヘ

第二魚ノ毒性アルモノ多クハ辨別シ難シ之ヲ獸類
ニ食ハシメテ試ルトキハ稍々疑ヲ解クヘント雖モ
或ハ猫犬ニ食ハシメテ毒アルモ人身ニハ却テ害ナ
キモノアリ又偏ニ其味ノミヲ試ミテ妄ニ無毒ナリ
ト信スルトキハ亦大誤ヲ生セルコト多シ故ニ辨別
シ難キモノニハ別ニ良法アリ其法魚ヲ柔軟ニシ
テ皮ヲ剥ギ去リ之ヲ内臟ト共ニ棄去ルヘン皮ト内
臟トハ先ツ速ニ腐敗スルモノナリ

第三魚ノ真子ヲ摩リ附クルノ際ハ決シテ之ヲ捕フ
可カラズ

第四鉛銅製造場ノ近旁ナル水若クハ他ノ工場ヨリ
鐵質ヲ含ミテ灌注スル河沼水中ノ魚ヲ捕フルヲ防
止スベシ

第五魚類ノ良否ヲ辨驗スル人ハ健魚ト病魚トヲ辨
別スル諸徴ヲ識ラサルヘカラス事ノ檢査ヲ要ス可
キコトアリハ其死シテヨリ始テ凍リ續ケタルカ
一ハ始メ凍リテ中ニ融解シ又再ヒ凍リテ凝固
セルカヲ檢査スヘシ魚ノ眼目ヲ見ハ自ラ辨別
ノハ生時ノ角膜ニ融解ヲ生セルモ
ノハ生時ノ角膜ニ融解ヲ生セルモ

申第八十壹號

來十一年徵兵年齡相當之者ハ安政四己年三月一日ヨリ同五年二月末日迄出生之者ヲ召募ス依テ右月日內出生之者有之候ハ、來ル九月十日限其戸主ヨリ本人主ナラハ本人等ヨリ届書可差出候此段布達候事

但届書式其他書類差出方等ノ儀ハ本年懸屬乙第二百三十八號ヲ以テ區戸長エ相達置候ニ付各振所於テ承知可致事

明治十年八月六日

千葉縣令柴原 和

和

甲第八拾貳號

本年縣廳甲第貳拾號ヲ以及布達置候縣稅種目中
各別徵收之部分ニ左之一種挿入候條此段布達候

事

省用

明治十年八月六日 千葉縣令柴原 和

一 諸市場稅

右之通候事

千葉縣

甲第八十三號

御國產製紙用元質ノ價ハ海外各國ニ無比類長質ニテ所製ノ紙品堅韌耐久ノ効驗有之外國人ニ於テハ殊ノ外賞贊賞重候次第ニ付此御國產ヲ増殖シ紙品輸出盛大ニ相成候ハ、無慮ノ國益ヲ振興候ハ必然ノ儀ニ候處機械造紙營業ノ者モ追々創立且紙幣局東京王子村抄紙部ニ於テ現今製紙ノ需用ニ供スル原質莫太ニ有之各地方現在ノ產出高ニテハ充分ノ製紙事業難施候テ自今各地方ニ於テ雁皮三ツ俣楮桑ノ類生産方充分盡力致レ

千葉縣

追々產出高繁殖其土地人民ノ利潤ヲ計リ候様其筋ヨリ照會ノ趣モ有之候尤原質製撰方粗畧ニテハ製紙所ニテ再ヒ青皮等別除ノ手數相懸リ隨テ代價下落相成候ニ付青皮等悉皆創除致シ全ク精白ニ歸シ候品ニ候ハハ製紙所ニテ再撰ノ手數相省キ候事故買入代價モ自ラ相騰リ青皮ノ如キモ素ヨリ不用ニハ無之蓋紙製造ノ用ニ適シ候品ニ付產出元方ニ於テ製撰ノ際上下ノ品等ヲ區別シ全ク精白ニ歸シ候品ヲ上等トシ創除ノ青皮ヲ下等トシ夫々撰別致シ候ハ、賣出元方ニ於テモ多

少ノ利益ヲ相増シ製紙所ニ於テハ再撰ノ費途ヲ
省キ雙方ノ所益不少右青皮等混同不致極精白ノ
上等品ニ候ハ、雁皮ハ目方壹貫目ニ付代價壹圓
貳拾五錢ヨリ多カラス三ツ俣ハ同斷五拾貳錢ヨ
リ多カラス其他楮桑ノ如キモ見本検査ノ上品價
相當ノ分ハ多少ヲ不論産業者申出次第紙幣局ニ
於テ買上相成既ニ此程伊太利亞國ヨリ製紙注文
有之同局ニ於テ抄造差送ラレ候次第ニテ追々海
外ニ輸出擴張ノ兆効モ有之候ハハ原質ノ代價モ
隨テ騰貴致シ産業者ノ利潤不少殊ニ雁皮ハ山中

千葉縣

自然生ノモノニテ培養ノ勞モ無之山稼ノ者菊出
ノ勉不勉ノミニ關シ三ツ俣楮桑ノ類モ年々豐凶
ノ差異アル物ニ無之候間右之旨趣稱厚ク相心得
從前未開ノ生産追々盛大相成工業國益併進候様
精々奮發勉勵可致候此段諭達候事

但本文製紙原質賣上方要望ノ向ハ見本並ニ代
價書等直ニ紙幣局ニ差出可申候此段モ是又營
業ノモノニ爲心得可申達事

明治十年八月十日 千葉縣令柴原 和

甲第八拾四號

下總國千葉郡平山村入會
長峯村

字中峠野

一現反別三拾壹町五反貳畝廿五步

右ハ東山科村ト新稱第拾壹大區或小區ニ漏入候
條此段布達候事

明治十年八月十一日 千葉縣令柴原 和

千葉縣

申第八拾五號

本年六月縣廳甲第七拾貳號布達商賈組合取締規則
第一條各商種目中へ更ニ左ノ一業追加候條此段
布達候事

七十二年八月廿五日

明治十年八月廿五日 千葉縣令柴原 和

一古銅鉄賣買

千葉縣